

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

心不全・脳卒中後患者の介護実態の調査

研究分担者 辻田 賢一（熊本大学大学院生命科学研究部・教授）

研究要旨

心不全・脳卒中後患者の介護実態の調査を行ったところ、熊本大学病院単施設では介護度の把握に偏りが生じるため、より俯瞰的・網羅的な取り組みとして、多職種連携の情報共有ネットワークである熊本メディカルネットワーク（KMN）の活用が有望である。

A. 研究目的

H29年度・30年度の調査から、熊本県の心不全・脳卒中後患者の介護実態として、

1. 熊本県は全国平均と比較して高い高齢化率・要介護認定率を持つ。
2. 要介護(要支援)の主要因としては、脳血管障害・認知症・心疾患が多い。
3. 心疾患は要支援が多く、介護度が高くなると脳血管障害の割合が増える。
4. 施設毎に特徴があるため、対象となる原因疾患が変化する。

事が明らかになった。しかし、より詳細な介護実態の把握には、より俯瞰的・網羅的な取り組みが必要であり、利用者個人単位でのデータ収集を可能にする仕組みの重要性が明らかになった。そこでH31年度は、その実際のデータ収集の取り組みについて検討した。

B. 研究方法

- ・ 熊本メディカルネットワーク(KMN)を用いた職種横断的情報共有システムの利用

- ・ The Kumamoto

Intervention Conference Study
(KICS)ネットワークの活用

の有用性について検討した。

C. 研究結果

1. KMN に関しては、熊本大学病院・熊本県医師会・関連団体が連携し、医療機関、薬局、介護事業所間でのネットワーク共有網を構築しており、
(ア) 2019年5月30日時点：カード発行枚数 13,379枚 (県人口の0.8%)
(イ) 2019年12月05日時点：カード発行枚数 24,752枚 (県人口の1.4%)
(ウ) 2022年3月(目標)：カード発行枚数 50,000枚 (県人口の3%)

と順調にデータベースを拡大しており、有望な多職種連携ネットワーク共有網であることが判明した。



2. KICS については、

- 熊本大学関連 17 施設が参加した、PCI 症例の全例登録データベース
- 2008 年～2018 年間の 10 年間で登録：計 **37,809** 症例
- 登録時の PCI データに加えて、予後情報も登録：予後調査登録済み **18,495** 件

D. 考察

これらの結果をまとめると、

1. 介護実態の把握には、より俯瞰的・網羅的な取り組みが必要である。
2. 熊本メディカルネットワークは、多職種連携の情報共有ネットワークであり、俯瞰的な実態把握が期待される。
3. KICS registry の協力体制を利用することで、循環器関連の介護実態については全数調査に近い実態把握を目指すことができる。

事が明らかになった。

E. 結論

心不全・脳卒中後患者の介護実態の調査は、単施設では介護度の把握に偏りが生じるため、より俯瞰的・網羅的な取り組みが

必要である。これらのデータベースの活用によりより適切な介護サービスが明らかになりうる。

F. 研究発表

1. 論文発表

Suzuki S, Tsujita K, et al. H2 FPEF score for predicting future heart failure in stable outpatients with cardiovascular risk factors. ESC Heart Fail. 2020 Feb;7(1):65-74.

2. 学会発表

第 23 回日本心不全学会学術集会
(2019 年 10 月 6 日発表)

パネルディスカッション 4「脳卒中・循環器病対策基本法制定により何が変わるか」

「熊本県における循環器救急の現状と課題」

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし